

現地からお届けするオンラインフォーラム 滋賀会場

2022年度障がい者の働く場 パワーアップフォーラム

「人は自立して生活することで幸せを感じられる」
高工賃へのあくなき挑戦

沖縄の障がいのある方の「将来設計」を応援

「おしごと発見フェア」を 開催しました

奨学生レポートVol.13

大城円香さん 琉球大学 医学部保健学科3年

学びを止めないことが、理想に近づく最良の方法。

助成先レポートVol.43

株式会社リーフエッチ あまみん(鹿児島県大島郡龍郷町大勝)

ジェラテリアで、また一つ利用者さんの夢を形に



カラフルな鳥たち (アクリル絵の具)

作：千葉大基



母に勧められて、弟が通っていた幼稚園で絵を習い始めました。
小学校5年生のときです。
動物が好きで、特に鳥を描くことが多いです。
フクロウやオニオオハシ、この絵はキツツキをイメージして描きました。
いつも、スマートフォンで描きたい動物を探したり、
イラストを探したり、あとは自分の想像、ひらめきです。
頭はサル、身体がヒツジ、足はトラ、
しっぽはヘビの想像の動物を描いたこともあります。

いつか、虹をこえるようなカラフルな絵を描きたいです。

千葉大基

Profile

2001年11月生まれ
株式会社リクルートスタッフィングラフツ
コーヒー事業部に勤務。コーヒー豆の選別、計量、ドリップバッグ詰めなどを担当しています。
(スワン工舎新座2021年6月卒業者・16pもご覧ください)

CONTENTS

表紙写真

奨学生レポートに登場する琉球大学医学部の大城円香さんがじゅまるが茂る琉球大学キャンパスにて。

03 現地からお届けするオンラインフォーラム 滋賀会場
2022年度障がい者の働く場
パワーアップフォーラム
「人は自立して生活することで幸せを感じられる」
高工賃へのあくなき挑戦

09 医療的ケア児者とお母さんの
『普通に暮らしたい』を叶えるために

10 奨学生レポートVol.13
大城円香さん 琉球大学 医学部保健学科3年
学びを止めないことが、理想に近づく最良の方法。

06 沖縄の障がいのある方の「将来設計」を応援
「おしごと発見フェア」を開催しました

14 助成先レポートVol.43
株式会社リーフエッジ あまみん(鹿児島県大島郡龍郷町大勝)
ジェラテリアで、また一つ利用者さんの夢を形に



日本障害フォーラムが
推進するイエローリボン
運動に賛同しています。

9月22日
滋賀会場

成功事例から学んで、 ポストコロナの 販売方法を探っていこう！

2022年度

障がい者の働く場 パワーアップフォーラム

「人は自立して生活することで幸せを感じられる」

高工賃への
あくなき挑戦

2022年9月22日
滋賀会場
(社福) 共生シンフォニー

2022年11月25日
宮城会場
(社福) はらから福祉会

2023年1月12日
東京会場
東京都立産業貿易センター浜松町館
※リアル会場での開催を予定



(NPO)日本障害者協議会 藤井克徳代表
「治具などで一人ひとりに合わせた働く環境づくりを進め、高工賃の達成を」



山内理事長
「うちにびつたりの方法でなくても、それを自分なりにどう料理するかが大事」



本年度のパワーアップフォーラムは滋賀と宮城の現地会場からオンラインで、また東京ではリアルとオンラインのハイブリッドで、二つのスタイルで実施します。

視聴者の「目となり、耳となり」ゲストたちが、現地から発信

新たな試みを取り入れた第1回目のフォーラムを、9月22日に滋賀県大津市の(社福)共生シンフォニーで開催しました。

オープニングで山内理事長は「コロナ以外にもさまざまな変化が起きたとき、どう考え、対応していくのか。そのヒントをホスト施設の成功事例から学んでいきましょう」と挨拶。ホスト講演では(社福)共生シンフォニーの中崎ひとみ常務理事と2人の所長が、三つの事業所で働く利用者さんの動画とともに、高工賃を実現する工夫などを伝えました。

続いて(NPO)日本障害者協議会の藤井克徳代表が講演。「や

りがないのある仕事に就き、高い給料を得るデイサービスセンターは、だれもが平等に持つ権利です。しかし、障がいのある方の就労率は34%台で、国民全体の約79%にはまだ遠く及びません。それを改善するためにも、障がい者というくりではなく、一人ひとりをしっかりと見つめた合理的な配慮こそ、いま必要とされているのです」と解説しました。

そのあと、ゲストの(認定NPO)麦の会 コツペの飯嶋茂さん、(社福)平成会の多機能型事業所あさひの岩岡智之さんがコロナ禍での近況を報告。お二人は、シンポジウムでホスト施設を見学した利用者さんの働きぶりや支援の仕組み、営業方法などについての感想も伺っています。



がんばカンパニー



はっぴいミール



ほわいとクラブ



(社福)共生シンフォニー
常務理事 中崎ひとみさん



がんばカンパニー
所長 水野 武さん



はっぴいミール・ほわいとクラブ
所長 荷宮将義さん

ホスト講演

テーマ「私たちの軌跡と高工賃への取り組み」

互いのできることを考え
みんなで支え合う体制づくり

現地会場は、昨年(社福)共生シンフォニーが建設した「びわこ共生モール」です。ここは障がいのある方のシヨートステイ施設や相談所、重度の心身障がい者も安心して過ごせる医療的ケアも備えた施設、さらに就労を目指す方の学び舎も集めた複合施設です。

「なかなか立派でしょう。でも約30年前に私が入職したころは、オン

ボロ木造アパートの6畳一間。経営は厳しく電気が止まりそうにもなりました。それを変えたのが、添加物などを一切使用しないクッキーの製造・販売です。売上は伸び、利用者さんの給料増額も達成できると入所希望者も増えていきました。しかし職員の負担はどんどん膨らみ、このままでは続けられないと悩む者も。そこで事業担当を分けることにしたんです。ケアやデイサービスの施設、障がい者運動の施設、ビジネスを担当する施設と役割を分

担。障がいのあるなしに関係なく、できる人ができることをやり、互いに支え合う。それぞれの仕事に専念できる体制を整えていったんです」と中崎常務理事。こうして誕生した「がんばカンパニー」です。

利用者さん一人ひとりが
力をつけ自信を持って働く

「1日の生産量は平均400〜500kg。多い時は1トンにもなるため、みんなで力を合わせなければとても納期に間に合いません。そこで工程を細かく切り分け、各作業のやり方をわかりやすくパターン化。さまざまな用具も用意して、たくさん利用者が参加できるようにしたんです」と水野武所長。原材料も「これくらい」などの目分量ではなく数字で明確に示すことで、高い品質の商品を安定して生産できています。

「コロナの影響で卸販売やイベントの注文が減りましたが、お取り寄せチームで通販が伸び、全体の売上をカバーできました。おかげで月額

平均給与12万円、多い人で20万円を維持できています」。

「利用者さんは、刻み食などの調理方法や食品衛生もしっかりと理解し、調理の主役として活躍しています。毎朝のミーティングで、自分たちの仕事分担を話し合い、決めていく姿は、とても頼もしいですよ」と荷宮将義所長は話します。荷宮さんは、清掃や家財整理などを行うB型事業所「ほわいとクラブ」の所長も兼務。「他社が気づかないところも清掃し、片付け方もとても丁寧だと高評価をいただいています。それもみんなが仕事に誇りを持ち、より高い給料を手にしたと頑張っているからでしょう」。

「全事業所で、後輩の目標となる先輩が着実に育っている。そんな働く環境と仕組みづくりが、高工賃を実現する秘密のようです」。

(社福)共生シンフォニー

- 設立：1986年4月1日
- 事業所数：全11カ所
- がんばカンパニー：就労継続支援A型事業所、菓子製造、定員40名
- はっぴいミール：就労継続支援A型事業所、給食・弁当製造、定員20名
- ほわいとクラブ：就労継続支援B型事業所・清掃、除草、家財整理(施設外)など



ウイズコロナで福祉施設が生き抜くために、通販も重要



がんばんカンパニー見学



ほわいとクラブ見学



はっぴいミール見学

シンポジウム

テーマ「さらなる高工賃を目指し新たな販路への挑戦、取り組みについて」

通販など成功事例を ヒントに自ら動き出そう

コーディネーターの藤井氏が、ゲストの(社福)平成会多機能型事業所あさひの岩岡さんと(認定NPO)麦の会 コッペ 飯嶋さんに投げかけたのは、視聴者代表としてホスト施設を見学した感想です。

「障がいの重い軽いに関係なく働くことができる環境をどうやって整えていくか、その発想力を見習いたい」と岩岡さん。飯嶋さんも「うち

もできるだけ作業手順を明確にしようとしています。ここは職員だけでなく利用者さんも一緒になって一段高いレベルに進められている」と感心しています。

さらに、高工賃達成へのキーワードも書いてもらいました。

「『思い立ったら、即行動』です。私たちのチョコレート事業も自ら動き出すことで、はじめて地域の協力も得られました」と岩岡さん。飯嶋さんからは「今より前へ」。『あそこならできてもうちは、とか言わ

ず前に進む勇氣を持つこと』と伝えました。ホスト施設の中崎さんが書いたのは『後悔するな!』のメッセージ。『私はいろんな失敗をして、いまがあります。コロナ禍での失敗も通販という活路の発見につながりました。そこでヤマト福祉財団さんにご協力いただき、通販事業で成功している方たちのノウハウを全国の福祉施設と共有する活動をはじめたんです。ぜひ一緒にチャレンジしていきましよう』と呼びかけました。

ゲスト報告2

社会福祉法人 平成会 多機能型事業所あさひ
サービス管理責任者 **岩岡智之** さん
(広島県竹原市)



テーマ：ピュアチョコレートで地域活性化!

あさひはB型事業所で、広島県特産のカキの養殖で使用するホタテの貝殻に針金を通す作業などの下請けをやってきました。ところが4年前の西日本豪雨災害では仕事が完全にストップ。そのとき、より高い給料とともに地元の役にも立てる、そんな仕事をつくり出そうと決心しました。着眼したのはピュアチョコレートです。広島大学のチョコレート博士・佐藤先生のご指導を仰ぎ、ヤマト福祉財団さんにも助成いただき、地元の廃校になった小学校を工房に改造。今後はカフェとしても運営し、ここに来れば利用者さんも地元の方も元気になれる、そんな場にしていきます。

ゲスト報告1

認定NPO法人 麦の会 コッペ
代表理事 **飯嶋茂** さん
(宮城県仙台市)



テーマ：コッペのあゆみと高工賃への取り組み

コッペは、パンやクッキーを作っている普通のお店に、たまたま障がいのある方も一緒に働いている、そんなB型事業所です。こだわってきたのは、障がいのある人の労働権利を守ること、安全で美味しいものを地場の国産の小麦で商品を作るということの二つ。私たちは直販ではなく卸業に徹することで売上を安定させ、月額平均給料約5万円を達成してきました。しかしコロナ禍で注文は激減し給料もダウン。それを助けてくれたのが地元のつながりと、通販という新しい販路です。みんなでいろんな課題を乗り越え、以前の給料以上にきつと回復してみせますよ。

沖縄の障がいのある方の「将来設計」を応援

「おしごとと発見フェア」を開催しました



「これを機会に、障がいのある方たちが、少しでも具体的に目標をつかめたら」と比嘉委員長（右）。「沖縄の地元の方と一緒にもっといろんなアイデアを出し合っていきたい」と山内理事長

どんな仕事がある？自分にもできる！

「ゆいジョブ！」が開催した出会いと体験の参加型イベント

沖縄パワーアップフォーラムから誕生した「ゆいジョブ！」は「働きたいと願う障がいのある方」と「雇用したいと考える企業」とを結ぶマッチング情報局です。

「両者の出会いサイトを作ったが、画面上

の情報だけではなく、実際にお会いしてお話を聞ける機会を設けてあげたい。就職への悩みにも答えてあげたいし、障がいのある方たちがいろいろな仕事を体験することで、自分の可能性を発見することもできたら…。そんな実行委員たちの思いが実を結び、7月28日、宜野湾市の沖縄コンベンションセンター会議棟で「おしごとと発見フェア2022」を開催しました。

ゆいジョブ！の名前は、沖縄の方言「ゆい

まーる（助け合い）」から来ています。その名のもとに、多くの企業や団体がフェアに参加。コロナ禍での感染を配慮した会場には、300人を超える来場者があり、地元のテレビや新聞などでも報道されました。

「たくさんの方が、いろいろな仕事を用意して私たちを歓迎してくれている。チャレンジしてみたら、私はこんなこともできるとわかった。そんなたくさんの方の気づきを得られる参加型のイベントを実現できたことをうれしく思います」と実行委員長の比嘉多美子さん。山内理事長も「仕事の体験をできたことが非常に良かったですね。みなさんの生き生きした顔を見ることができ、うれしかったです」と感想を話していました。

後援：沖縄県／沖縄県教育委員会／沖縄労働局／独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構 沖縄支部／沖縄県中小企業家同友会／沖縄経済同友会／沖縄県商工会議所連合会／琉球新報社／沖縄タイムス社
※このフェアは…パワーアップフォーラム沖縄実行委員会とヤマト福祉財団が主催となり、他にも沖縄県などが後援して実現できた企画です。

「会って、相談して、体験もできる」ワンストップ型イベント

イベント2 / おしごとチャレンジ体験会

接客講習会(飲食)、ベッドメイキング、縫製、介護、製造業、IT、フラワーアレンジメント



イベント1 / 合同企業説明会

各企業ブース、企業情報掲載コーナー、障がい者雇用応援企業コーナー、産業カウンセラー相談コーナー、ゆいジョブコーナー(会場案内、問い合わせ受付)



イベント3 / 就業準備なんでも相談会

個別相談会、キャリアカウンセラー相談コーナー、ビジネススマナー関連展示コーナー

合同企業説明会 参加企業一覧

(有)フィーチャー企画 / 損害保険ジャパン(株) / (株)沖縄タイムス社 / 沖縄ヤマト運輸(株) / (株)御菓子御殿 / 東京海上日動火災保険(株) / 沖縄支店 / イオン琉球(株) / (株)バルシステム24 / (株)EMウェルネスリゾート / (有)大宮工機 / (株)沖縄ダイケン / (株)琉球補聴器 / (株)ワールドスタッフィング / (株)大城組 / (株)ロワジュール・ホテルズ沖縄 / 三建設備(株) / 沖縄子育て良品(株) / (有)仲松ミート (順不動敬称略)



参加企業の声

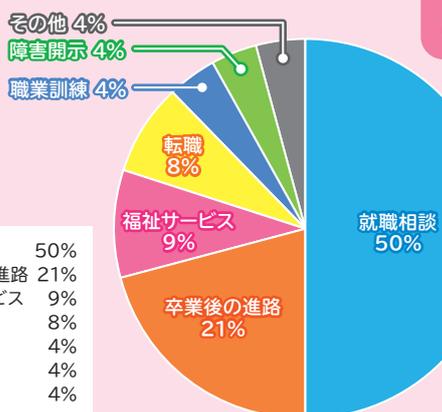
「学生は特に不安を持つ方が多いようです。職場体験ができると話すとホッとされていました」

参加者の声

「どの企業がどのような募集をかけているか、今日来れなかった仲間にも教えてあげたい」

「どういった事業を行う会社なのか、どんな職種、仕事で雇用したいのか、働く環境はどうなっているか」など、県内の企業18社が一堂に会して説明を行いました。
利用者さんと一緒にご家族や福祉施設の職員も同行し、採用に関するさまざまなことを質問。参加者には、就労について考える良いきっかけとなりました。

合同企業説明会



こんな相談が寄せられました



「なかなか仕事が決まらない。障がい者手帳を持っていない。持っているが開示すべきなのだろうか。まだ学生だけど、卒業後はどうしたら良いのか」。いろいろな不安を抱える障がいのある方たちが個別相談に訪れました。
カウンセラーは、各人の悩みに回答するとともに、必要に応じて専門機関などと連携し、具体的な解決につなげていきます。

就業準備なんでも相談会

おしごとチャレンジ体験会

縫製、IT、接客、高齢者介護、フラワーアレンジメントなど、一つの企業が業種別の体験コーナーを用意。

「漠然とどんな仕事かわからなかったけど、体験してみても楽しくなりました。私にもできそうです」と施設から就労を目指す利用者さん。特別支援学校から参加した3年生たちは「いままでは就職する、仕事をするのがどういふことかわかりませんでした。でもこの体験を通してイメージがわいてきました」と感想を寄せてくれています。

協力企業・団体一覧（順不動敬称略）
 (同)AICO/(公社)沖縄県精神保健福祉会連合会/(有)仲松ミート/(株)メジャーサポートサービス/(NPO)沖縄県脊髄損傷者協会/(社)福まつみ福祉会/(同)はる/ソフィエル・パーク(株)

接客サービス



「いらっしゃいませ。恐れ入ります。そんな挨拶をハキハキと言えるようになりますように」

ホテルの支配人だったスタッフに接客やテーブルマナーの基本を教えていただきながら、実際に仕事としてどう行うかを体験。「レストランには、障がいのある方でできる仕事がたくさんある」との言葉は、接客業を希望する参加者に良い励みとなりました。

IT②文字のデータ化



「パソコンを使うことが意外と簡単だとわかり、就労する自信もわいてきました」

DTPや文字入力、名刺印刷、点字印刷を体験しました。「文字のデータ化というパソコンを使った基本的な仕事を体験することで、利用者さんの得意なことを再発見することができる」という話は、施設の職員にも参考になりました。

IT①在宅ワーク



「通勤に不安がありましたが、技術を覚えて環境を整えれば、自宅で働けるとわかりました」

パソコンを使って、在宅しながらどんな業務ができるのか。Googleクラウドのパワーポイントやワード、エクセルなどの使い方をレクチャー。事務業務やサイトの更新をする業務など、独立して仕事をしたいという方に向けても有意義な仕事体験でした。

フラワーアレンジメント



「やってみたら楽しくて。集中していたから時間の経つのを忘れてしまいました」

男女問わず体験希望者が殺到して大盛況になりました。「この花をまん中に持ってきたら、これを曲げたらどう変わる?と自ら工夫することが大事。フラワーアレンジメントを通して、仕事に対する姿勢や意識を高めてほしい」とのメッセージが印象的でした。

高齢者介護サービス



「ドライヤーをかけた後、靴下をはかせたり、お年寄りのお世話をやってみたいです」

お風呂上がりのお年寄りの体を拭いたり、ドライヤーをかけたりと介護サービスの仕事を体験。「足は指を1本ずつ拭き、そのあと靴下をはかせます」と実践に即した方法に参加者はうなずき、トライを。他にも私物洗濯物のたたみ方にも挑戦しました。

teとteの会がNPO法人としてスタート

医療的ケア児者とお母さんの『普通に暮らしたい』を叶えるために



子どもたちが生きていく居場所づくりを

ブリッジネットワークの設立から約1年、嬉しいニュースが飛び込んできました。

参加サークルの一つ、宮崎県日向市の「teとteの会」が8月、NPO法人に認可され、医療的ケア児者のためのレスパイト・生活介護の事業に向けてスタートしました。メンバーのお母さん達が自ら初任者研修の資格を取得、その後、喀痰吸引の資格をとり、重症心身障害児、医療的ケア児者を介護するお母さんたちの働く場にもなります。

teとteの会のはじまりは12年前。医療的ケア児者のお母さんたちが集まり、子どもたちの居場所づくり、普通に暮らす生きる場所づくりを目的に、行政への働きかけや、互いの子どもたちの介護などをしながら活動を続けてきました。

医療的ケア児者は、人工呼吸器や胃ろうを使用し、たんの吸引や経管栄養など365日24時間の介護が必要です。お母さんたちは2時間すらまとまって寝ることができない状況があります。特に日向市では施設が少なく、医療的ケア児は週2回程、生活介護に移行した子供たちは週1回のデイサービス利用のため、お母さんたちは週1回しかホッと、身体を休める時間を持ってません。

teとteの会の甲斐麻央さんは「私達が自らアクションを起こさなければ、周りも行政も動かない。NPOを立ち上げた目的は、親子後も子どもたちが生きていく居場所づくりです。居場所ができてからこそ、その先に母親の社会復帰が考えられます」と話します。

障がいの重い医療的ケア児者を抱えたお母さんたちは、お仕事をするのも、ましてや仕事

を選択するのも難しい状況で、貧困と隣合わせで社会生活が難しいご家庭もあります。

「お母さんたちはパンを焼きたい、アロマのサロンやカフェをやりたい、洋服に関わりたいという人もいます。自分たちがやりたい夢を実現するための一歩がこの事業。まずは子どもたちが生きていける場所ができないかぎり、その夢は一生叶わないかも知れません」と甲斐さん。

お母さんたちの

「働きたい」という夢を

ブリッジネットワークの楠元理事長は、「まずはteとteの会のお母さん達の働きたい、社会と繋がりたいという夢を実現できるのではないかと思います。この子供がいたから出合いがあり、こういう事業ができて、沢山の人が働ける場所も作っていく。あきらめずに動いて行けば、制度も後からついてきます。どんなことがあっても応援して行きたいと思っています。お母さんたちの『普通に暮らしたい』という思いが一番、それを目指していきたいです。」

ブリッジネットワークでは甲斐さん達の活動をモデルとして、全国にこの取り組みを広げていきます。



※ヤマト福祉財団は第13回ヤマト福祉財団小倉昌男賞受賞者である楠元洋子氏が立ち上げた「医療的ケア児者と家族を社会につなぐネットワーク」の活動を支援しています。





私たちの賛助会費が生かされています 奨学生レポート vol.13

学びたいことがあるから、
挑戦したいことがあるから…。
そんな想いで大学に進学をした
障がい学生がいます。
そんな彼らを奨学金制度で
応援しています。



大城 円香さん

琉球大学
医学部保健学科3年

小さいころは活発な子だったという大城さん。中学生のころに脊髄内腫瘍が分かり、大きな手術を経験しました。現在は一人暮らしにも挑戦し下肢麻痺と向きあいながら、医療者になる目標に向かって、コロナ下のキャンパスで学んでいます。

障がい者奨学金制度

社会の役に立ちたい、自己実現を図りたいと、障がいを乗り越えて大学で熱心に学ぶ方々に月額5万円(返済不要)を助成しています。

学びを止めないことが、理想に近づく最良の方法。

ウィズコロナのキャンパスで

「もともと一人で勉強する人間だったので、3年生になって初めて誰かと一緒に勉強するようになって、こんなに身に入ってくるんだと。友だちと一緒に勉強する機会が増えました」

脊髄の腫瘍で手術をして以来、車いすがかかせない大城さん。いまは臨床検査技師となるための勉強をしています。大城さんが大学に入学したのは、コロナで全国的に最初の緊急事態宣言が発令されたちょうどそのころ。1年目はオンライン授業が中心で友だちをつくる機会もなく、「夢のキャンパスライフとはほど遠かったです」。

2年生になると実験科目のため、他学部はオンラインのままでしたが、一転して登校するようになり。

「でも実習のほうが座学より楽しかったです。自分たちで採血し合って、遠心分離器にかけて血球の様子を顕微鏡で観察したり、血中の酵素を測定して肝機能の状態を調べる実験などをしていました」。

毎日1限から5限までみっちり実習と講義。キャンパスの引きこもりのような生活に一変したようですが、「数少ない同じ学科の仲間たちと一緒に授業を受けて、厳しいテスト対策をして…」と、友だちとの絆も次第に深まっていったようです。

なりたいたい自分を見つめて

病気になる以前から医療系に関心があったという大城さん。

「テレビなどで国境なき医師団を見て、漠然と医者という仕事に興味があったのが最初です。車いすになってからは再生医療に興味を



勉強仲間の國吉凜子さん(右)。クイズ形式で、「これはなんでしょう?」と言い合って覚えます



車いすから運転席への乗り換えはもちろん、車いすの上げ下ろしも一人でこなします



遺伝子解析は車いすでもできそうで、かつ再生医療にも関わりのある分野なので、とても興味を持っています



顕微鏡で観察するのは臓器の組織標本。検体検査のための練習です

持つようになりました。

機能を失った組織や臓器を甦らせることを目指す再生医療。京都大学の山中教授のグループが、革命的とも言えるヒトiPS細胞の作製に成功し、世界に衝撃が走ったのは2007年。記憶にまだ新しいところで。

「再生医療がふつうに利用されるようになるまでには何十年もかかると思います。でも、私が元気なうちに、一般医療となつて自分の治療にも使われるようになったらいいなとは思いますが」と大城さん。

「車いすだと就職の幅が狭まりますが、やっぱり医療系に進みたい気持ちがありました。そのうえで再生医療の進歩にすこしでも関われそうで、かつ車椅子でもできそうな...と考えて、臨床検査技師を目指すことに決め、一浪してここに進学しました。」

一人暮らしもすつかり板に

1年生の夏に運転免許を取得してからは一人暮らしをされているとのこと。「この原理を使えば、どうってことないです!と、助手席に積んだ重たいはずの車いすの上げ下ろしも手慣れたもの。運転はまだ得意ではないと言いますが、大学へもリハビリ先の病院へも一人で向かいます。」

「料理は膝の上になま板を置いてしています。親が知ったら悲鳴を上げるかもしれませんが、そのほうが楽なので」笑。

困ることといえば、ベッドの下の収納スペースから物を取り出すときぐらい。

「ベッドの下にすのこがあつてその下が収納なんです、取り出せなくて。家族や友だちが来たときに、それだけはやってもらっています。」

基本、インドア派という彼女。コロナ下の自

粛生活もまったく苦にならなかつたと言います。

「本が好きでいろいろ読みます。『精霊の守り人』の上橋菜穂子さんや宮部みゆきさんなど、ファンタジー系が好きですが、最近は話題になっている新書なども読むようになりました。」

家にテレビを置いていないというのは今ですが、じつは大のマーベル好きだそうです。

「一人、マーベル友だちがいて、2カ月に1回くらいペースで新作が公開されるので、一緒に映画を観に行ったりします」と、ふだんの楽しみを語ってくれました。

再生医療に携わりたい!

この秋からの期では、いよいよ病院での実習。そして来年になれば卒業研究が始まります。

「卒研のテーマはまだ決まっていらないのですが、希望どおり血液免疫学の研究室への配属になりました」と、大城さん。成人T細胞白血病について、分子生物学的な視点からの解析等に取り組んでいる教授の下で学びます。大城さんが興味を持っている再生医療や免疫機構に関わりの持てる研究室を選びました。

すこし気が早いですが、卒後の進路について何うと...

「まずはコツコツ勉強して、臨床検査技師の国家試験に合格しないと。その後は就職ではなく、さらに大学院に進んで修士を取りたいと思っています。それで最終的には、再生医療に関わる研究所や企業に勤めて、そこに携わる仕事ができたら...」。

気負わず、でもしっかりと目標を見据えている大城さん。いま、しなやかに力を蓄えています。

全国で助成金の贈呈式を行いました

北信越支部



東京支部



中部支部



中国支部



関西支部



2022年度 ヤマト福祉財団奨学金贈呈式を行いました

ヤマト福祉財団では、社会に役立ちたいと学ぶ障がいのある大学生に月額5万円(返済不要)の奨学金を差し上げています。今年度は14名の大学生が選考され、大学にお伺いして贈呈式を行いました。



佐藤 かえでさん
宮城学院女子大学 学芸学部 心理行動科学科 1年



長縄 創也さん
日本大学 文理学部 地球科学科 2年



森 柊也さん
東京農業大学 農学部 生物資源開発学科 1年



塚原 杏由理さん
富山大学 経済学部 経営法学科 3年

ジェラテリアで、また一つ利用者さんの夢を形に

2021年7月に世界自然遺産となった奄美群島の特産物を使ったトロピカルなジェラートが、ネットで話題になっています。それを製造しているのが奄美大島にある株式会社リーフエッジ あまみん。今年5月には、本助成を使い待望の販売実店舗「ジェラテリア」もオープンしました。

Data

株式会社リーフエッジ
あまみん
鹿児島県大島郡龍郷町大勝



ジェラート工房でジェラートマシンを使いこなす利用者さんたち。当初は1日100個程度でしたが、いまでは午前中に2人で500個も！



本助成で建設したモダンな木造2階建ての建物の前で、利用者さんと記念写真。1階がジェラテリア、オープンカフェもあります



「接客業にずっとあこがれていたんです」と、とびきりの笑顔でおもてなししてくれた利用者さん(左)

他では作れない贅沢なジェラートに

目の前に広がる緑豊かな樹木に、サトウキビ畑、鳥たちのさえずりが聞こえるジェラテリア。そんな風景に「Tropical Amami. 奄美のジェラート」の鮮やかなのぼりと、落ち着いた雰囲気のお洒落な木造の建物が優しく溶け込み、観光客や地元の方の癒しのスポットになっています。それにしても奄美大島の太陽は強烈。美しい風景よりも冷蔵ケースに並ぶ色とりどりのジェラートに目は釘付けです。早速、ドラゴンフルーツなどのジェラートを注文し、風通しの良いオープンカフェへ。一口食べると、すっぱい甘い、さわやかな南国フレーバーが、口中に広がっていきます。

「2019年にジェラート作りをはじめたのは、農家さんのもとで施設外就労を行い、そこでもいただいた果物をお金に換えるため。労働対価を金銭ではなく作物でいただくのは、農家の負担を少なくし、互いに支えあう関係にしたかったからです」と代表取締役の田中基次さん。

「簡単にマネされない、また食べたくなる、買いたくなる商品をと」工房を建設します。そして誕生したマンゴー、スモモ、たんかんなどのトロピカルフルーツをふんだんに使った果汁50%の贅沢感あるジェラートは、島内のホテルやショップで販売いただけることになりました。

しかし2020年春、コロナウイルスの感染拡大で観光客が激減します。落胆する職員や利用者さん。田中さんはこれを機に島外にも販路を拡大する」と宣言し、福岡で開かれた大規模商談会に参加。高島屋の2021年お中元ギフトのオンラインショップに出品できることになり、表紙も飾ることに。これが反響を呼び、売上は想



パタフライピーの冷たいハーブティー

株式会社リーフエッジ
代表取締役 田中基次さん



世界自然遺産に登録された奄美群島の素材を使ったジェラート。現在では南西諸島まで素材の種類が広がり、全部で16種類のフレーバーを楽しめます

ジェラテリアの2階に“農泊”すれば、パランダからの素敵な風景を独り占め



新たに購入した農地の前に広がる太平洋

像を超えて大きく伸びていきました。

実店舗の完成で目に見えない効果も

コロナ禍でお取り寄せを楽しむ全国のお客様にアピールしています。ジェラートの種類は奄美群島だけでなく他の島々の特産品も盛り込み約16種類に。さらに、自家栽培したハーブティーも加えた商品ラインアップはじつに華やかです。「でもウェブだけではダメ。実店舗がないと、百貨店やお客様からの信頼性は大きく異なります。実店舗を利用した方のSNSなどの宣伝効果も期待できると、ジェラテリアの建設費をヤマトさんに申請したのです。ジェラテリアには、他にも“接客業をやりたい”という利用者さんの希望をかなえる目的もあります。2階には休憩室も備え、農業チームもここで一息つけるそんな働く環境を整えました。」

ジェラテリアは、ウッドショックや地震など、さまざまな困難を乗り越え、今年5月にやっと

オープンしました。そこからは、数字や目に見えないさまざまな効果も生まれています。

「目の前でジェラートを食べたお客様に、美味しかったよ」と声をかけられたらうれしくなりますよね。それを他チームにも話すことで、みんなが仕事の喜びを共有できるようになっていったのです。ジェラート作りは大変そうだから嫌だと言っていた方が、私もやりたいと自分から申し出てくるなど、一人ひとりの仕事へのモチベーションがぐっと上がってきています。」

大切なのは全利用者さんが希望する仕事・職場で無理なく働くことができるようにケアすること。田中さん自身が作業療法士であり、他にも精神福祉士の資格を持つスタッフもいて、一人ひとりの体調などを管理し支援しています。

「あまみんが目指すのは、ずっと通いたくなく、こち良い居場所に、さまざまな仕事を留意し、より高い給料を支払うこと」。現在、平均月額給料は約2万6000円まで増えましたが、まだ上にはいけるはず。そこで考えたのが、農業体験をして宿泊もできる“農泊”です。ジェラテリアの2階に宿泊部屋も作りましたが、その窓から眺める満天の星空は、最高ですよ。」

海に見える農園を新たに購入し、A型事業所を作り、農泊施設を整える計画も進めています。どこまで事業が広がっていくのか楽しみです。

労働組合支部執行委員長 助成先訪問 Series 38

ヤマト運輸労働組合
鹿児島支部委員長
内村 秀幸さん



まずは現場を見て、体験することから

田中さんのお話を伺って、どんなときも前向きで、先を読みながらいろいろと考え行動されている、その視野の広さに驚かされました。

いま全人口の約8%が、なんらかの障がいのある方で、これからももっと増えていくでしょう。そんな日本の未来を考えると、私たちが夏のカンパだけでなく、いろいろ考え、実践していく必要があります。

まずは、この島の組合員がジェラテリアを訪ね、ジェラートも食べて、利用者さんの働く姿を見てもらい、感じたこと、発見できたことをみんなで共有していきましょう。そこから、私たちになにができるか、新しい活動のヒントも生まれていくかもしれませんね。



設立から229名の方が スワン工舎を飛び立ち、 社会で活躍しています

今年で14回を迎える卒業者の集い。今年もコロナ禍のため延期を繰り返しましたが、7月2日、ホテルカデンツア東京(練馬区)に全卒業者と保護者のみなさま125名をお迎えしました。



2年ぶりに歴代の卒業者が集まりました



山内理事長から修了証書を受け取る社会人1年生



「私たちはみなさんの応援団です!」と、高橋業務執行理事

今年度、勤続10年表彰を受けた卒業者は11名

(社福)ヤマト自立センターから企業に就職したみなさんを「卒業生」として表彰する「卒業者の集い」は14回を迎えました。すでに229名の方が社会で活躍しています。

今年の卒業者は11名、勤続10年表彰者も11名となりました。山内理事長から1人ずつ修了証書を受け取り、堂々とされている卒業生のみなさん。理事長と記念撮影のあと、恒例の卒業生インタビューを行いました。

スワン工舎新卒の卒業者は6名。(株)ゴルフパートナーの横田琉真さんの目標は、嫌なことがあってもあきらめずに頑張ること。(株)リクルートスタッフィングクラブツの冨田真秀さんの仕事は紙漉き、オリジナルのステーションナリーになります。同じ会社でコーヒー事業の仕事をやる千葉大基さん。絵を描くことが大好きな千葉さんは山内理事長に鳥の絵をプレゼントしました(2p参照)。(株)角川



「失敗しても気持ちを切り替えて頑張ります」と、勤続10年を表彰された吉田さん

クラブの高橋悠菜さんは、就職して1年。仕事に本当に楽しいと話します。毎朝6時半に起きて、仕事で頑張って貯金をしているという(株)武蔵野フーズの小林祐介さん。(株)INZOSフロンティアの渡辺彩樹さんは、人の関わりが楽しく、職場の方に飲み会に連れて行ってもらったと言います。

スワン工舎羽田の卒業者は5名。(株)スワンのシュエズクリーニング1期入社の古谷優季さんがやりがいを感じるの、クリーニングをしたベースの方から「ありがとう」とお電話をいただいた時。同じく1期入社の岩田大輝さんは、お給料で大好きなウルトラマンと仮面ライダーのDVDを入手したそうです。まいばすけっと(株)で働く下田哲平さんが嬉しかったのは仲間と仲良くなったこと。(株)しまむらで紳士服と子供服の売り場を担当している川上翔さんは、求められることが多い分、達成感があると話します。パソコンを駆使してエクセルの関数を使いこなし、事務作業を担当するのはクボタワークス(株)の及川裕大さんです。

今年度は勤続10年を迎える卒業者が11名となりました。ヤマトホームコンビニエンス(株)の中枝雅紘さん、(株)PCOのホールディングスの熊谷和哉さん、(株)アドバンスの松下直人さん、ヤマト運輸(株)の小越由佳さん、(株)スワンの吉田桃子さんの5名の方が当日、表彰状を授与されました。勤続10年の1人、吉田さんは、「失敗しても気持ちを切り替えて頑張ります」と、力強く話してくださいました。ヤマト自立センターの高橋業務執行理事は「スワン工舎とみなさんは強いきずなで結ばれています。私たちはみなさんの応援団、このきずなをさらに強くしていきたい」と締めくくりました。

(株)ENEOSフロンティア/全国に直営店600、特約店600のサービスステーション(SS)を擁するENEOS株式会社100%出資の販売会社です。2001年から始まった障がい者雇用は、重度を含め現在73名で雇用率2.58%。今後も増やしていく方針です。



すっかり気心の知れたスタッフのみなさんと渡辺彩樹さん(中央)

不安になったこともあったけど、 頼りにされると嬉しいから頑張る。

対人関係が苦手で、過去には仕事で壁にぶつかった経験もある渡辺彩樹さん。でも人一倍の頑張り屋で、現在の職場では周囲の温かいサポートもあって、接客もこなしています。

■社会福祉法人ヤマト自立センター スワン工舎 就労に必要なスキルの習得はもちろん就労先の開拓からジョブコーチによる就労後のサポートまで一貫したプログラムで、障がい者の自立支援に取り組んでいます。

裏方の業務をきっちりこなし、
電話やカウンターでの接客業務にも挑戦！

県道沿いのガソリンスタンドにまた一台車が入ってきました。スタンド内の事務所でモニターに向かい、安全な給油ができるよう監視作業をしているのは、昨秋から勤める渡辺彩樹さんです。同年代の仲間や先輩たちとともに週3、4日ほど、汗を流しています。

「セルフ式のスタンドではお客さま自身が給油されますが、給油までの作業が正しく行われ、ノズルが給油口に挿されたのを確認してから、じつは事務所でロックを解除する作業を行っているんです」と説明するのは同店マネージャーの吉田さん。スタッフが確認し都度「解除」しなければならぬと消防法で規定されているそうです。



監視モニターに注視して、安全が確認できたら、ロック解除のタッチパネルを操作します。



今では空気圧の調整もお手のもの。

渡辺 彩樹 さん 埼玉県直営事業部Dr.Driveセルフ西所沢店(2021年10月20日入社)

得意はお菓子作り。中でもクッキーが一番好きだという渡辺さん。職場に持参するお弁当ももちろんお手製です。休日は祖母の家で、犬のお世話をしたりして過ごしています。



管理本部人事グループ 押田信明氏(右)、マネージャー吉田潔人氏(左)

渡辺さんはその重要な仕事を中心に、洗車やカウンター受付業務等を担当しています。

「来店に波があり、落ち着いたり、バタバタしたり、それに合わせるのがちょっと大変ですけど楽しくやっています」と渡辺さん。先日はスタッフの食事会にも参加して、これもとっても楽しかったんだそう。

当初は接客になれておらず電話応対も苦手な様子だったと振り返る吉田さんの信頼も今は厚く、「私から18時までお願いしました」と、当初9〜16時だった勤務時間も延長され、時には残業もこなしています。

「給油のロック解除は自動化が許されず、人手が足りない」と訴えるお店の声はありますが、渡辺さんのような方はありがたい」と本社人事グループの押田信明さん。できる仕事の幅をさらに広げてほしいと期待を寄せます。社員に近い仕事ができるれば、社内ルールに則って、社員登用への道も開けると語ります。

「お客さまに『ありがとう』と言われたときが一番うれしい」と言う渡辺さんが、打ち明けてくれた将来の夢は一人暮らし。

職場の方々にも恵まれて、スタンドは自信と希望を、渡辺さんに補給してくれるかけがえのない場所になっていました。

夢へのかけ橋

プロジェクト



経済的な自立力を備えた
新しい福祉に向かって

利用者さんの給料増額に向かって

夢へのかけ橋 実践塾

コロナ禍で延長された夢へのかけ橋実践塾、農福連携実践塾も今年度で修了となります。
目標に向かってラストスパートです。

第3期楠元塾 塾長視察

2022年7月20日

利用者さんの仕事をしやすい環境づくりを

どんぐり村福祉工場

岐阜県にある「どんぐり村福祉工場」では、毎日350食以上のお弁当を福祉事業所や病院職員へ配達。入塾時から比べると確実に売上も上がってきました。毎日、350食以上をつくるために、お弁当箱を配膳台に1回で200個以上並べて盛り付けしています。楠元塾長の指導で、その場で並べるお弁当箱の数を減らし、盛り付けるお弁当の置き場を確保するように変更しました。これにより利用者さんの動く歩数も減り、早くお弁当が作れます。「利用者さんたちが仕事をしやすいのが私たち、支援者の仕事です」。できあがったお弁当を置く場所、プラスチックなど機械の位置・使い方、お弁当の入れ物、ゴミ箱の位置など一つひとつが、仕事をする人の動線に関わり、環境づくりに繋がってくることを学びました。



第4期新堂塾 見学勉強会

2022年8月18日

利用者さんの「はたらく力」を伸ばすために

東京都板橋福祉工場

新堂塾アドバイザーの菅野先生と東京都板橋福祉工場を見学しました。ここでは水耕栽培の植物工場、DM、ベーカリー・喫茶店の運営を行っています。

菅野先生は、職員の仕事はなにか、ということについて、「はじめて、作業を見た人が、どんな仕事をやっているのか、どんなふうにして、作業が流れているのかが分からないと、利用者さんも分からない。どこの場所で、どれくらいの作業を行うのかを決めるのが職員の仕事、納期にあわせて作業室の職員が交通整理を行い、作業を見守る。管理者は営業に行く。目指すのは『利用者さんのはたらく力』を伸ばすこと」とお話しいただきました。



第4期新堂塾 見学勉強会

2022年8月30-31日

新規事業、新商品の開発で工賃アップを

あんずの森

愛媛県松山市のあんずの森は、B型とA型の事業所を運営し、ステップアップしながら就労へと、「はたらく」を通して利用者さんの自立に向けて支援しています。ヤマト福祉財団小倉昌男賞受賞者の柴田智宏氏にご協力をいただき、ペットフードのリパックをはじめました。近隣にメーカーが無いので、ペットフードにこだわらず、「リパック」の事業を農業班でつくったハーブを加工してバックにするなど、新しい価値を考え工賃アップを図っています。施設の見学後には職員全員が菅野先生を囲み、日頃の支援のヒントを得る貴重な時間となりました。



農福連携実践塾

2022年9月16-17日

ジャパンフーズプロジェクトに参加、 実績を発表しました

ジャパンフーズプロジェクト主催による農福連携六次化ブランディング全国フォーラムが、9月16日、八芳園で開催されました。今回は、財団との共同開催で、「農福連携実践塾六次化レポート」の発表を兼ねて、塾生が全員参加し、六次化を行っている加工班がそれぞれの実績を発表しました。

フォーラムの後に行われた農福連携実践塾では、餃子の新商品開発、ぶどう栽培を始めた、なし栽培を手がけているなどの新たな事業展開を報告。日頃の栽培の悩みや、利用者支援についても活発な議論が交わされました。卒業まで残り半年、ゴールに向けて塾生の活動に期待するばかりです。



YWF TOPICS

組合員のみなさまから夏のカンパより、74,816,000円のご寄付をいただきました。
みなさまの善意を障がい者の自立支援に使わせていただきます。



9月8日、オンラインで開催されたヤマト運輸労働組合第77回定期中央大会のなかで夏のカンパの贈呈式が行われました。今年も、ヤマトグループ企業労働組合連合会より、昨年を上回る74,816,000円のご寄付をいただきました。ありがとうございます。

山内理事長は「ヤマト福祉財団は、みなさまからいただいたあたたかい気持ちを、ヤマトグループが目指す豊かな社会の実現、障がいのある方や社会的弱者と一緒に暮らせる幸せな社会を作る、そういった所に役立てていきたいと考えています。

外部の方に、『労働組合が中心となって組合員に声をかけ、カンパを集め、それを財団に寄付していただいて障がい者支援に活かしている。22万人の気持ちで運営している財団です』という話しをすると、必ず驚かれます。

みなさんが苦勞されて集めていただいているカンパは、世の中からみたくときに素晴らしい仕組みであり、誇れる活動だと言うことをお伝えして、御礼のことばに代えさせていただきます。ありがとうございます」と、モニターを通して、全国の組合のみなさんに感謝の気持ちをお伝えさせていただきました。

お待たせしました！

障がい者の働く場パワーアップフォーラム 「人は自立して生活することで幸せを感じられる」

2023年1月12日(木)東京でリアル開催します

講演者の生の声を聞いて、一緒に学べる機会です。
みなさんのご参加をお待ちしております。

開催概要 日程：2023年1月12日(木曜)
会場：東京都立産業貿易センター浜松町館 4階【北】
時間：10:00~16:30
定員：150名
参加費：無料
※手話通訳と文字通訳を実施します

募集 ヤマト福祉財団ホームページから
参加登録をお願いいたします。

ヤマト福祉財団



通販研究会を発足 販売不振の障がい者施設を支援



財団では、コロナ禍でイベントが開催されず、店頭販売も不振となった障がい者施設を支援するために、有志のご協力のもと「通販研究会」を発足させました。どのようにすれば売れるのか、販売のチャンスはどこにあるのか、検討・検証の実施をスタート。7月、その一環としてリーフレットとヤマト運輸のECサイト「らくらるカート」でショップのサイトを作成。QRコードをリーフレットに掲載して商品ページに繋いでいます。試行錯誤のなかですが、通販事業のロールモデルを立ち上げようと考えています。

ピカソとその時代 ベルリン国立ベルクグリューン美術館展



パブロ・ピカソ《緑色のマニキュアをつけたドラ・マール》
1936年 油彩、カンヴァス ベルリン国立ベルクグリューン美術館
©Museum Berggruen - Nationalgalerie, SMB / bpk / Jens Ziehe
©2022 - Succession Pablo Picasso - BCF(JAPAN)



アルベルト・ジャコメッティ《ヴェネツィアの女 IV》
1956年 ブロンズ ベルリン国立ベルクグリューン美術館
©Museum Berggruen - Nationalgalerie, SMB / bpk / Jens Ziehe



アンリ・マティス《雑誌『ウェルヴ』第4巻13号の表紙図案》
1943年 切り紙、カンヴァスに貼り付け
ベルリン国立ベルクグリューン美術館、ベルクグリューン家より寄託
© Private Collection, on loan to Museum Berggruen - Nationalgalerie, Staatliche Museen zu Berlin / bpk / Jens Ziehe



パウル・クレー《中国の磁器》
1923年 水彩・グアッシュ・ペン・インク、石膏ボード、合板の額
ベルリン国立ベルクグリューン美術館
©Museum Berggruen - Nationalgalerie, SMB / bpk / Jens Ziehe

DATA

開催期間 ▶ 2022年10月8日(土)～2023年1月22日(日)
休館日 ▶ 月曜日、10月11日(火)、12月30日(金)～2023年1月1日(日)、
1月10日(火) ※ただし、10月10日(月・祝)、2023年1月2日
(月・休)、1月9日(月・祝)は開館
開催場所 ▶ 国立西洋美術館
アクセス ▶ JR上野駅(公園口出口)より徒歩1分
京成電鉄 京成上野駅より徒歩7分
東京メトロ銀座線・日比谷線 上野駅より徒歩8分
開館時間 ▶ 9:30～17:30(金・土曜は～20:00)
※入館は開館30分前まで

観覧料 ▶ (税込)	一般	大学生	高校生
	2,100円	1,500円	1,100円

※中学生以下は無料
※心身に障がいのある方および付添者1名は無料
※中学生、高校生、大学生、各種お手帳をお持ちの方は、いずれも証明できるものをご提示ください
主催 ▶ 国立西洋美術館、ベルリン国立ベルクグリューン美術館、東京新聞、TBS、共同通信社
後援 ▶ ドイツ連邦共和国大使館、ゲーテ・インスティテュート東京

■ 稀代のコレクター・ベルクグリューン

美とは何かが根本から問い直された20世紀。大きく揺れ動いた同時代のアートシーンを構成する貴重な作品群が一挙に日本で公開されます。

ドイツ生まれのユダヤ人ハインツ・ベルクグリューンはナチスの迫害から逃れて米国に移住。大学で独文学や美術を学びました。第二次世界大戦後にヨーロッパに戻った彼はやがてパリに画廊を開きます。画商としてピカソらと交流を深めるかたわら、納得する作品を自ら収集、世界でも有数の個人コレクションを築きあげました。90年代に祖国へ戻った彼は、ベルリンでコレクションを公開。後にベルクグリューン美術館と改称され、2000年には主要作品がドイツ政府に購入されると、ベルリン国立美術館群の一翼を担うアートの殿堂となりました。

■ 20世紀アートのエッセンスが一室に

その確かな審美眼とあふれる情熱を注いだコレクションに、ベルクグリューンは彼がもっとも敬愛した同時代の4作家を柱に据えました。ピカソ、クレー、マティス、ジャコメッティら、20世紀のアートシーンで特別な輝きを放つ巨匠たちです。

とくにピカソのコレクションは目を見張る充実ぶり。ベルクグリューン美術館の開館以来、主要作品が国外にまとめて貸し出されるのは初めてです。来日する97点のうち76点は本邦初公開で、約半数はピカソの作品(35点が日本初公開)となります。これに日本の国立美術館が所蔵する11点を加え全108作品、20世紀美術のかなめを目の当たりにできる希有な機会です。ヤマト運輸株式会社は本展作品の輸送・展示に協力しています。

協賛 ▶ DNP大日本印刷、あいおいニッセイ同和損保
協力 ▶ 日本航空、ルフトハンザ カーゴ AG、ヤマト運輸、西洋美術振興財団
問い合わせ先 ▶ 050-5541-8600(ハローダイヤル)
展覧会公式サイト ▶ <https://picasso-and-his-time.jp>
巡回情報 ▶ 国立国際美術館(大阪)2023年2月4日(土)～5月21日(日)

日時指定制 ※詳細は展覧会公式サイトをご確認ください

みんなが笑顔になるスワンのクリスマスケーキ



今年の新商品はお子さま向けに開発したハッピーロゼミニヨン。ほんのりイチゴの香りのするクリスマスケーキです。7大アレルギー不使用のハッピー-SWANストロベリーは、重たくないチョコレートケーキとして一般の方にも好評。8種類のラインナップで、お待ちしております。今年もみんなの笑顔がみえるスワンのケーキをどうぞ

お申し込み ▶ 10月20日(木)～11月25日(金)
お届け日 ▶ 12月20日(火)～12月24日(土)

●障がい者施設からご予約いただけます。

お問い合わせは(株)スワン 担当:石引・藤野まで
☎ 0120-230-787

スワンペカリー 検索

